



## 月見ヶ丘海浜公園における市民参加

NPO法人コモンズ 喜多順三

## 月見ヶ丘海浜公園とは



1. 徳島県空港周辺整備事業で整備される公園
2. 自然とのふれあい、レクリエーションの場
3. 埋立事業により消失する砂浜の代替施設として新たに造られる人工海浜の隣接地に整備
4. 公園の規模は14ha、東側には遊水池（7ha）がある
5. 2007年春完成予定

## 市民参加への取り組み

- N: もしもし、県庁 課のNですけど
- K: ご無沙汰してます。お仕事の方、いかがですか
- N: 実はそのことで電話しました。空港周辺整備事業の中に海浜公園があって、その計画づくりをP Iで進めたいと思うのですが、何か良いアイデアがあればと思い...
- K: 空港周辺整備事業といえば、埋立の是非で色々な議論ありましたよね。その公園整備をP Iで、ですか
- N: せっかく公園を造るのだから、多くの人に使ってもらいたい、完成後の運営や管理も市民参加型で進めたいと思っています。
- K: 分かりました。どんな進め方が可能か考えてみます。少し時間を頂いてもいいでしょうか。

## 公園予定地の状況

- すでに工事中の空港整備事業において護岸等の構造物の形状は決められており、変更はできない。
- 空港整備事業により消失する月見ヶ丘海岸の代替施設が、計画対象地の南側に整備される。
- 地元商工会が運営するキャンプ場も空港整備によりなくなり、その代替施設が計画地内に予定されている。
- 北側の隣接地には下水処理施設が計画されている。

## 市民参加に向けての課題

- 空港整備事業や海浜公園整備基本構想策定の段階では、住民や関係者との協議の場面がほとんどなかった。
- 空港整備事業については、知事選の争点ともなり、市民グループ等による計画の見直しの声が多かった。
- 計画地に周辺には民家は少なく、地元住民の枠の捉え方をどうするか検討を要する。
- 計画対象地の護岸形状などは変更が困難である。

## 市民参加の仕組みの検討



1. 枠組みの検討
2. プロセスデザイン
3. 成果イメージ
4. ヒアリングの実施
5. ワークショップの手引きの作成
6. 参加者の募集

## 枠組みの検討-1

### 1. P I の前提条件が共有できる仕組みづくり

#### 市民参加に対するのハードル

- ・ 計画の是非を巡る議論
- ・ 護岸等の構造物の変更が困難である

#### 前提条件のルール化とその理解

- ・ 海浜公園を県民自らが考え、つくり、育てるという視点で市民参加の場を考える
- ・ これまでに検討された整備方針等一つの仮説で変更 不能な前提条件とはしない
- ・ 良いアイデアがあればどんどん採用していく仕組みを考える

## 枠組みの検討-2

### 2. 市民参加の仕組みづくり

賛否の議論はあっても、市民参加の機会がなかった事業で、いきなり参加の場をつくることは困難

市民参加の契機づくりと、市民（県民）ニーズの発掘から始める

関係する団体・個人等にヒアリング調査 関係者分析、これまでの検討内容の是非やニーズの把握

関係者のスタンス、県民のニーズや関心を把握 今後の参加の場への働きかけが可能

## プロセスデザイン-1

### 第1段階（2003年度）

#### 参加のデザインのための基礎調査

事業経緯・関連事業の把握

ヒアリング調査・関係者の分析

参加の枠組みづくり

#### 市民参加による構想づくり（WS方式）

導入機能・構成要素・計画上の留意点の検討

成果を計画条件書のような形でまとめる

設計者選定時の留意点やチェックポイントの検討

## プロセスデザイン-2

### 第2段階（2004年度）

#### ・ プロポーザルによる設計者選定

第1段階の成果をもとに、プロポーザルによる設計者選定  
プロポーザルで計画条件書に対する考え方や、設計過程での市民参加への対応方法などを設計者に問う。

基本設計の中間段階や最終段階で設計内容がチェックできる仕組みの担保

#### ・ 基本設計の協議の場の設定

設計者とWS参加者が基本設計の内容について協議する場を設定

## 二つの成果イメージ

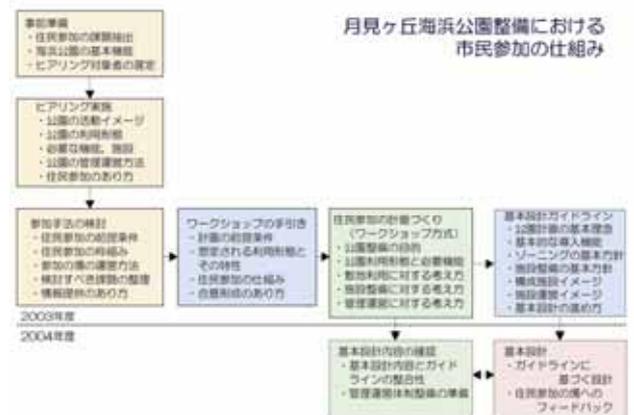
計画づくりプロセスの成果として2つのテキストを想定する。

### 1. ワークショップの手引き

ヒアリング調査をもとに作成する市民参加のルールブック

### 2. 基本設計ガイドライン

ワークショップの成果をもとに作成する公園づくりのアイデア集



## ヒアリングの実施

ヒアリング対象者（23団体）

- ・ 海洋レジャーやスポーツ関連の団体
- ・ 地元関連：商工会、漁協、ボランティア団体等
- ・ 市民活動団体

ヒアリング内容

- ・ 団体の活動概要
- ・ 海浜公園に対する期待
- ・ 海浜公園での活動
- ・ 海浜公園に求める機能
- ・ 運営体制についての考え方
- ・ 市民参加のあり方
- ・ その他

## ワークショップの手引きの作成

### 目的

- ・ 初めてWSに参加する人にも、WSとはどういうものかを理解してもらえる。
- ・ 今回の開催目的は何か、参加者の役割、成果品のイメージとそれがどのように使われるのかを示す。
- ・ 今回の海浜公園計画の内容や前提となる諸条件になにがあるのかを示す。
- ・ 事前のヒアリングでどのような意見が寄せられているのかを紹介する。

## 手引きの構成-1

- ・ はじめに

海浜公園における住民参加について

- ・ 手引きの目的

手引きの使い方など

- ・ ワークショップとは

WSとは何か、参加者や事業者の役割  
合意形成の手法、検討結果の取り扱い等

- ・ スケジュール

WSの開催予定、大まかなプログラム

## 手引きの構成-2

- ・ 海浜公園計画の前提条件

計画対象区域

事業目的（行政としての目的）

周辺整備計画との関係

計画対象地の状況

事業費と事業スケジュール

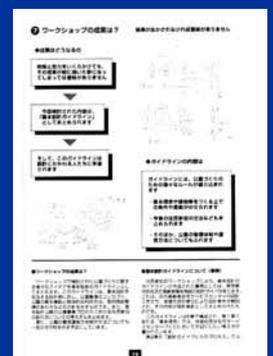
- ・ 海浜公園整備のアイデア

ヒアリングで収集した利用アイデア

## ワークショップの手引き



## ワークショップの手引き



## 参加者の募集

- ・ヒアリング対象者への働きかけ
- ・ホームページ
- ・広報誌の活用  
徳島県広報誌（OUR とくしま）  
松茂町広報誌



60名の応募

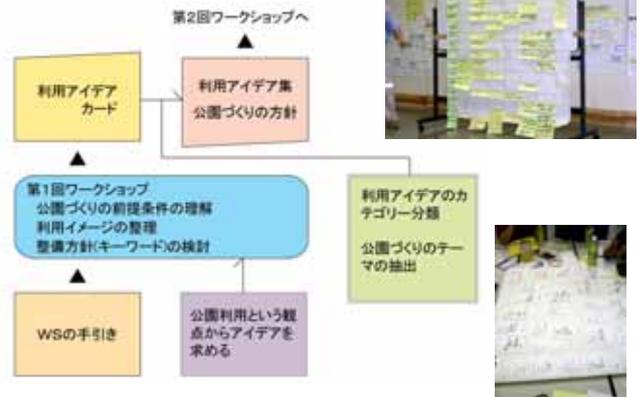
## ワークショップのプロセスデザイン



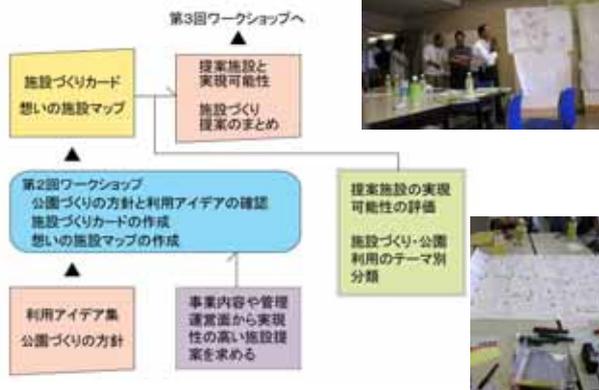
## ワークショップの実施

- プレワークショップ
- 第1回ワークショップ
- 第2回ワークショップ
- 第3回ワークショップ
- 第4回ワークショップ
- 基本設計ガイドライン（案）報告会

## 第1回ワークショップ



## 第2回ワークショップ



## 第3回ワークショップ





### 面の空間パターン、点・線の空間パターン

**面の空間パターン**

面空間パターンとは、平面空間を構成する要素の配置パターンを指します。

① 面空間パターン  
② 点空間パターン  
③ 線空間パターン  
④ 面空間パターン  
⑤ 点空間パターン  
⑥ 線空間パターン

**点・線の空間パターン**

点・線の空間パターンとは、点と線の配置パターンを指します。

⑦ 点空間パターン  
⑧ 線空間パターン  
⑨ 点空間パターン  
⑩ 線空間パターン  
⑪ 点空間パターン  
⑫ 線空間パターン

**ロー1 駐車場**

この駐車場の設計は、利用者の安全と利便性を確保するために、最新の駐車設備が採用され、北西側にはマリンスポーツや人工湖利用者のための100台分の駐車場が設けられています。さらに、機中運送の設備も備え、駐車設備として100台程度の駐車スペースが確保されています。

**ロー2 管理棟**

本館には公園全体の人工湖の管理のための施設（ポンプハウス）が設けられ、北西側にはマリンスポーツやキャンプに際した施設（トイレ）が設けられています。また、遊歩道や林道などの機能が併設されています。

### イメージを高める空間パターン

**イメージを高める空間パターン**

この空間パターンは、利用者のイメージを高めるために、最新の設備が採用され、北西側にはマリンスポーツや人工湖利用者のための100台分の駐車場が設けられています。さらに、機中運送の設備も備え、駐車設備として100台程度の駐車スペースが確保されています。

**ロー3 月夜広場の地上**

多目的な利用が可能となるように、芝生の広場になっています。ベンチや子供遊具の配置には十分な配慮がなされています。また、周囲のベンチは、個性材の土管と芝生により仕上げ、コンクリートなどの構造物は、階段・スロープを除きほとんど覆われていません。

### 基本構想図



### 設計者に求める資質

- ・公園づくりの経験がある人
- ・海辺の公園づくりに必要な安全性の確保やキャンプ・マリンスポーツなどに理解のある人
- ・ユニバーサルデザインについて十分に理解のある人
- ・自然環境への負荷の軽減や自然エネルギーの活用を理解のある人
- ・黒産材の活用について、柔軟な発想で取り組んでくれる人
- ・ワークショップで検討された内容を尊重し、住民の声を設計に反映することをしっかりと心得ている人
- ・住民参加やワークショップの方法を理解し、基本設計の際の設計意図や理由について、住民に分かりやすく説明してくれる人
- ・完成後の運営や維持管理にも十分な配慮をしてくれる人
- ・いろいろな人とチームワークを組んで仕事ができる人
- ・これまでの公園づくりの枠にとらわれず、新しいことにも積極的に取り組む意欲のある人



▼  
プロポーザルによる設計者選定へ

### 基本設計の進め方

ガイドラインをもとに基本設計がどのように進められているのかを確認するための場づくりが必要

- ▼
- 第1回の集まり  
WS参加者・県・基本設計者等の顔合わせ
- 第2回の集まり  
基本設計のたたき台をもとにした話し合い
- 第3回の集まり  
最終案の確認

### ワークショップの成果 - 2

月見ヶ丘海浜公園をみんなでつくる会の結成  
基本設計ガイドライン（案）報告会の際、WS参加者の合意により設立が決定  
目的

- ・海浜公園の基本設計内容の検討（協議の受け皿）
- ・公園の管理運営組織のあり方の検討
- ・管理運営への住民参加の枠組みの検討



## 参加者の評価

WS終了時のアンケートより

### 良かった点

- ・色んな意見が聞けた
- ・多様な意見が集約できた
- ・自分の意見が言えた
- ・色んな人と知り合えた
- ・WSが経験できた
- ・計画づくりへの参加が実感できた
- ・スタッフの取り組みが熱心で良かった

### 悪かった点

- ・時間が足りなかった
- ・十分な議論ができなかった
- ・全体で討議ができなかった
- ・参加者の年齢性別の偏り
- ・参加者が減っていった
- ・専門用語が理解しづらかった
- ・無難な案になった
- ・運営が強引すぎた

## 課題 - 1

### 全体プログラム

- ・4ヶ月間に6回のWSを開催
- ・検討内容の高度化に伴い、提供する情報量が増加、参加者がWSの展開について行きづらくなった可能性
- ・公園の規模や性格、管理運営のあり方まで検討するというWSの内容を考えると、もう少し時間をかけ、回数を増やした方が良かったかも知れない。

## 課題 - 2

### カードの利用

- ・限られた時間の中、参加者に検討してもらう内容を分かりやすくすること、グループ討議のテーマがぶれないことを意図し、参加者にアイデアを記入してもらうカードを多用した。
- ・カードが参加者の柔軟な発想を制限した可能性
- ・文字で表現するのが苦手な人に意見が言いにくいと感じられた可能性
- ・カード作りの意図が参加者に十分に伝わらなかった場面もあった

## 課題 - 3

### 公園イメージの共有化

多くの参加者は類似施設に対する認識が不十分な状態でWSがスタート。類似施設についての情報提供は参加者に先入観を抱かせる可能性を考え、ウチノ海総合公園の見学のみとしたため、十分な知識を持ってもらえなかった。

公園予定地が埋立中で、公園のイメージがつかみにくかった。

模型作成や中間での現地見学を行ったが、参加者の十分な理解を得るには至らなかった。



## 課題 - 4

### 参加状況

WSに先立ち行った聞き取り調査で、WSへの参加を働きかけたが、期待したほど多方面からの参加は得られなかった。

WS参加者自体も回を重ねるにつて減少していった。

参加者の募集方法、全体プログラムやスケジュール設定などにさらなる工夫が求められる。

